自治体シリーズ
首長に聞く

大西秀人・高松市長

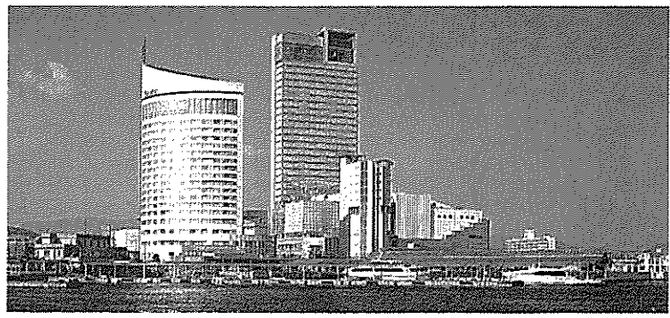
市制120年 7月には「瀬戸内国際芸術祭」開幕

今年、市制120年を迎えた高松市。「瀬戸内国際芸術祭2010」開催を控え、全国的な注目度も上がっています。大西秀人市長に、今後のまちづくりなどについて、お話をうかがいました。

【聞き手、毎日新聞高松支局長・姫野聡】

アートシティ魅力発信

瀬戸内国際芸術祭の会場の一つとなる高松市サンポート一帯（高松市提供）



県域連携人呼ぶ仕組みを

——高松市は今年、市制120年を迎えました。

大西市長　高松は1890（明治23）年、香川県の最初の市となりました。当時の面積はわずか2・85平方キロでしたが、人口は約3万4000人で、かなりの密度でした。6回にわたって近隣町村を合併し、さらに05年度には平成の大合併で6町と合併。現在は、人口が県全体の4割を占める約42万人、面積も5分の1となる約375平方キロの、中核都市となりました。1910（明治43）年に、宇高航路が開設されて以来、四国の玄関口として、また大企業、官公庁が立地する中心都市として発展してきました。88年の瀬戸大橋の開通時には、玄関口としての機能とともに管理機能も衰えるのではないかと予想する人もいましたが、余り変わっていないと考えています。

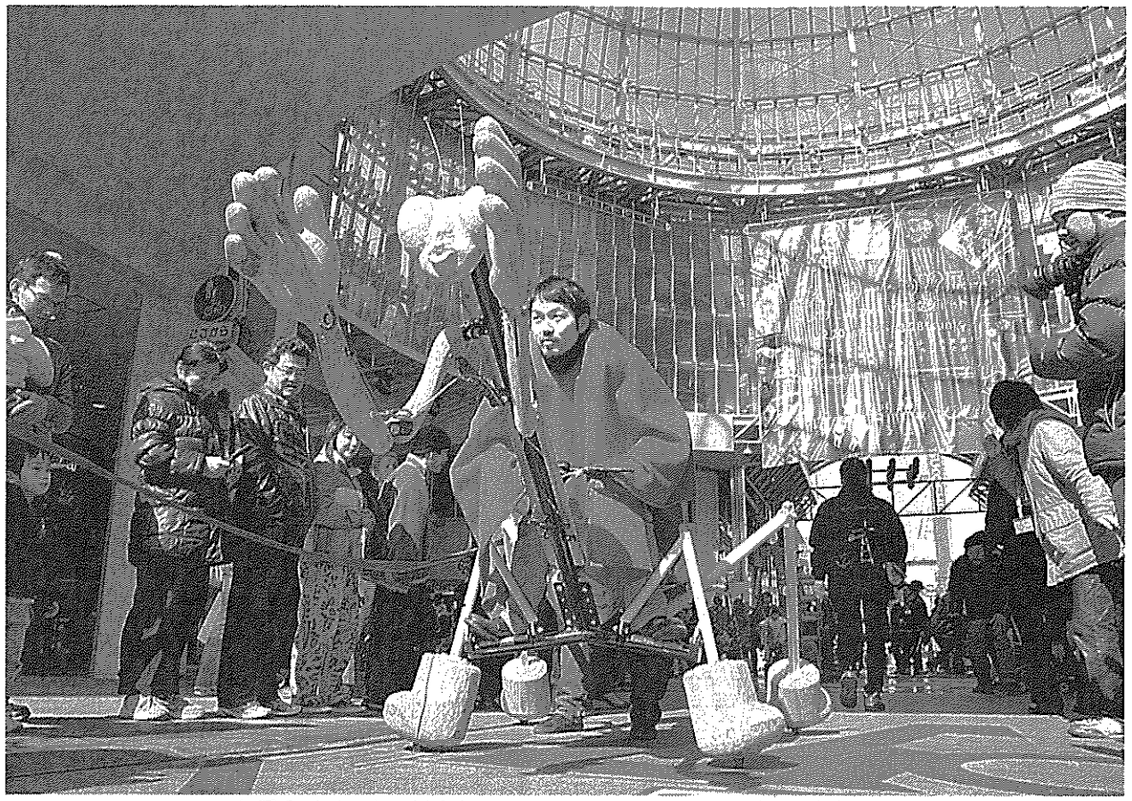
——全国では、昨年が市制120年の都市が多くありましたね。

大西市長　香川県が愛媛県から分離独立したのが1888年12月で、県の指導体制が整わず、市制施行も少し遅れたようです。しかし「瀬戸内国際芸術祭2010」「船の祭典2010」などの大きなイベントのある年と重なり、むしろ良かったと思っています。

——05年の合併までの旧市域と比べても、現在の市域は大きく広がりました。市の全体像も変化したのではありませんか？

大西市長　都市部中心だった市から、農村部や山間部など多様な地域を含む市内で、都市と農村が役割分担しながら、持ちつ持たれつ、連携していく形ができたと思っています。県出身の故大平正芳元首相の「田園都市構想」にも当てはまると考えています。また、さらに広い都市圏としては周辺を合わせ70万人程度の人口が想定されます。土庄、小豆島、三木、直島、綾川の5町と「瀬戸・高松広域定住自立圏の形成に関する協定」を結び、将来を見すえた連携の仕組みを充実させていきます。

観光で活力



各種のイベントの場となる三町ドーム（今年2月のイベントから）

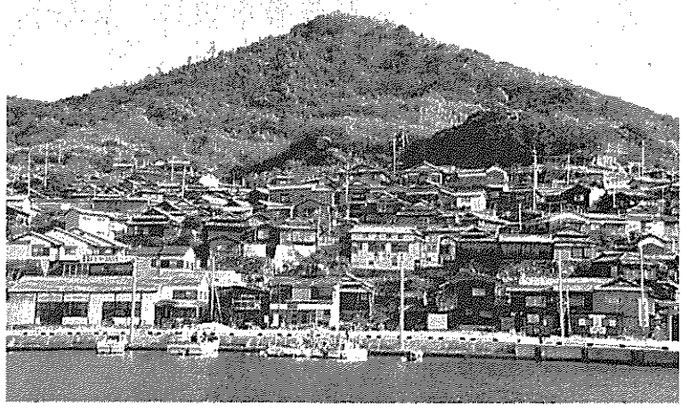
——7月には、いよいよ「瀬戸内国際芸術祭2010」が開幕します。

大西市長　観光で交流人口を増やし、地域に活力を与える必要があります。ミシュランで三ツ星になった栗林公園や屋島など、高松には観光地がありますが、琴平や直島、小豆島などと連携し、より県域全体で人を呼ぶ仕組みが必要です。その意味で、国際芸術祭は画期的なイベントであり、ぜひ成功させなければいけません。

——芸術祭では、市内も会場になりますね。

大西市長　女木島、男木島はいずれも人口200人ほどの小さな島ですが、そこにアーティストが10組単位で入るのです。島にとっては大きな変化ですが、住民は受け入れに好意的です。また、大島が会場になることには特別の意義があります。国立ハンセン病療養所の入所者と芸術家の交流は、世界的に注目されてもいいものです。高松港の旧県営桟橋も会場の一つ。

海、船、島 復権へ



瀬戸内国際芸術祭の会場の一つ、男木島。斜面に住宅が密集している

あそこは、取り壊す話もあったのですが、多くの市民、県民にとって、海の玄関口として思い出が詰まった場所。芸術祭会場として見直されるのはいいことですね。高松はなんと言っても港町。芸術祭や船の祭典を通して、海、船、島の復権を図って行きたいと考えています。それは今年3年目の「第5次市総合計画」で掲げている都市像「文化の風かおり　光かがやく　瀬戸の都・高松」にももちろん、つながります。

——アートがまちづくりに通じるのですね。

大西市長　市の独自事業としても、高松港や中央商店街などで、43の芸術祭関連事業を行い、まち全体で盛り上げていきます。現代美術というと「難しいもの」という見方がまだまだありますが、市内には「イサム・ノグチ庭園美術館」があり、流政之さんがアトリエを構えているなど、以前からアートは親しまれています。直島の成功例も大きいでしょう。実は雑誌「ブルータス」が今年3月号で「魅力ある地方都市ランキング50」という特集をやっていて、高松は福岡、京都、札幌、金沢などに続いて、7位に入っているのです。アートシティが定着。うどんツアーとのギャップで幅広い層を獲得」との評がついており、中国四国地方ではいちばんの評価です。惜しむらくは、全国からの注目度を、市民自身が余り知らないという点でしょうか。

「自治基本条例」2月施行

——市制120年の誕生日、2月15日には「自治基本条例」が施行されました。

大西市長　この条例は、都市圏という外への広がりの話とは逆に、より市民に密着した地域の再生を狙ったものです。人間と人間の関係で作られる単位はだいたい小学校区程度と考えています。そういった小さな地域コミュニティを軸にしたまちづくりを進めるため、市政に関する情報を共有し、市民が市政に参画し、さらに協働して地域の課題の解決に取り組むことを基本原則としています。地域ごとの「地域コミュニティ協議会」が、地域の個性を生かしながら、自主的にまちづくりに取り組みます。大きな地域間の連携と、小さな単位の活性化を両輪として進めていきます。

——市民の一人として、先の「魅力ある地方都市ランキング7位」には少し驚きました。

大西市長　市民が高松の良さ、魅力をもっと知ってほしい。そして、まちづくりに参加し、もっと魅力ある高松にしてほしいと願っています。

高松市自治基本条例のパンフレット

小さなコミュニティ軸に市民が情報共有 地域の課題の解決に取り組む